

## II. 活動計画

---

Action Plan

## Ⅱ 活動計画

### 1. 活動の概要

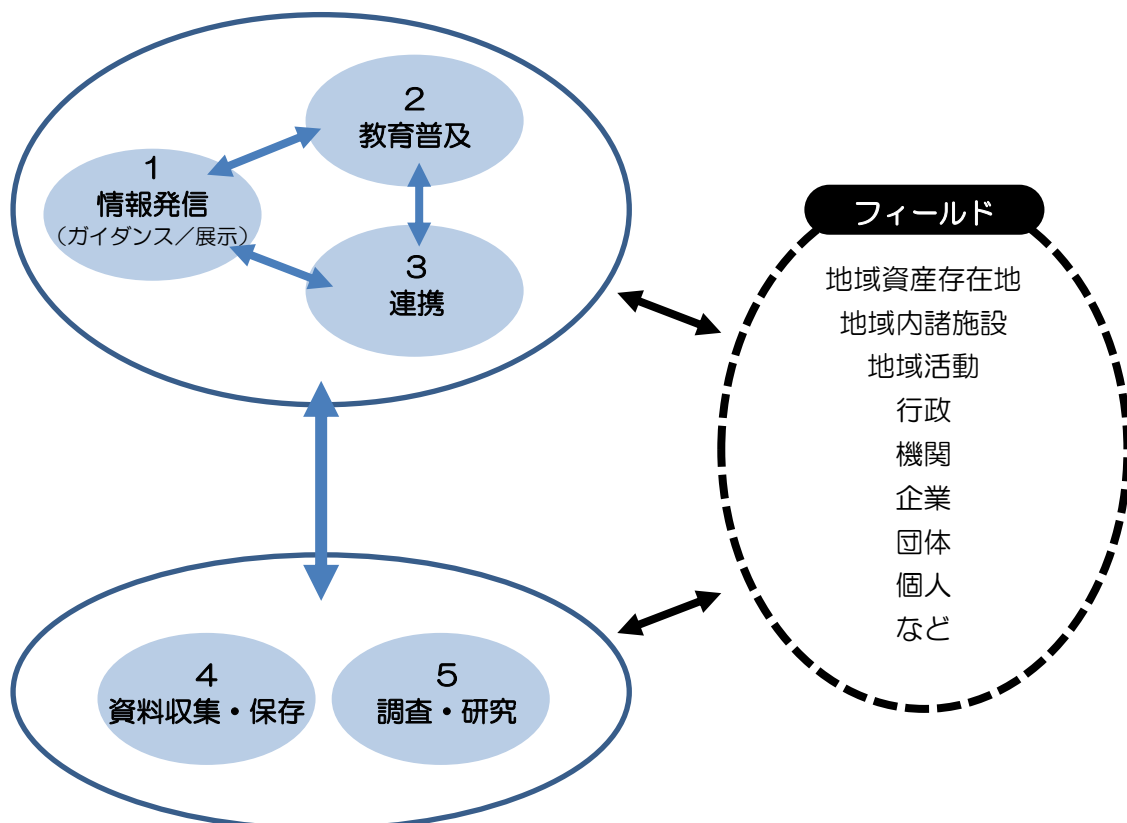
#### 基本となる 5 つの活動

「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」は、「名護・やんばる」フィールドミュージアムのコアであり、フィールド内の自然や文化に誘うための情報を発信するガイダンス施設です。

「名護・やんばる」の入口である本施設をスタート地点として広くフィールド内へ出かけ、自然や歴史・文化に直に対面し、様々な体験をすることが利用者の深い理解につながります。全体計画で挙げた 2 つの活動方針は、以下の 5 つの活動を基軸として展開することで実施していきます。

利用者に最も身近となる活動は、1 の情報発信活動と 2 の教育普及活動であり、3 の連携活動を通してフィールド内の拠点や外部機関などつながり相乗効果を図りますが、これらの活動を充実させるための根幹となる情報は、4 の資料収集・保存活動や 5 の調査・研究活動で培われます。

このように、5 つの活動は互いに密接な関係を持ち、どれか 1 つを単一的に議論することはできないため、全体的に俯瞰した上で各々の活動計画を述べていきます。



## Ⅱ 活動計画

### 2. 活動の内容

#### (1) 情報発信 - 出会いと発見

##### ① 活動概要

訪れる人が「名護・やんばる」の多様な情報に出会い、フィールドに出かけて様々な発見をする手助けとなるガイダンス機能を充実させます。

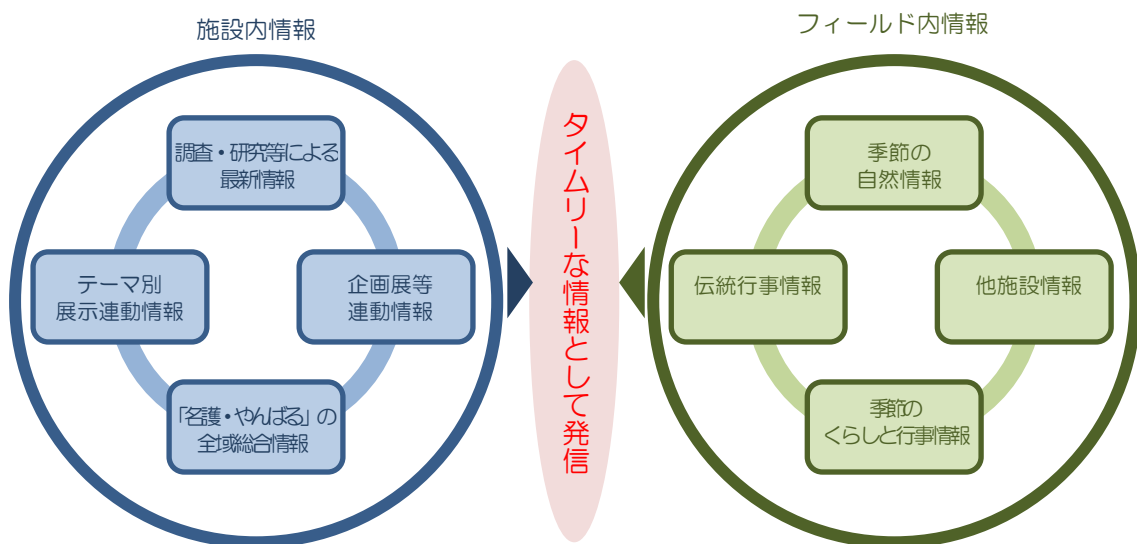
#### ア. 総合ガイダンス機能

##### ○わかりやすく使いやすい観光周遊ガイド

フィールド内の周遊スポットを多様な手法でわかりやすく紹介し、「名護・やんばる」の魅力を多くの利用者に伝えます。従来型の観光ガイドにはない本施設ならではの情報を提供し、ビギナーからリピーター、地域の人々から海外の方まで、興味の深度や様々なニーズに応じたガイダンスをおこないます。

##### ○タイムリーな地域活用情報の提供

調査・研究等による最新情報、企画展や特別展示等との連動情報、フィールド内の最新情報、季節ごとのおすすめ情報など、来訪時点におけるもっともタイムリーな情報の発信をめざします。



## Ⅱ 活動計画

### ○フィールド体験のモチベーションアップ

本施設でのプチ体験をきっかけに、フィールドへ出かけるモチベーションが高まり、現地でさらに充実した体験を得られる一助となるよう、本施設とフィールドとを効果的に連動させます。

### ○本施設とフィールドをつなぐ広域データベース「バーチャルミュージアム」

ガイダンス情報は、展示やパンフレットなどだけでなく、本施設に集約される広域データベース「バーチャルミュージアム」を活用します。フィールドに出向くことができない利用者にも、フィールドを仮想体験することのできるシステムを検討します。

## イ. 常設展示機能

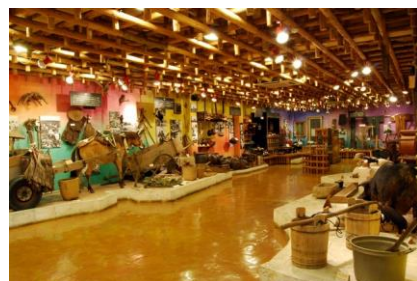
ガイダンス機能をより高めるためには、利用者の五感に訴えることが重要で、リアリティのある展示は大きな効果が期待されます。「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」では、施設内の屋内展示と敷地内の屋外展示を充実させ、よりガイダンス効果の高い情報発信をめざします。詳細については、「Ⅳ展示計画」で述べますが、展示の方向性として以下の方針にしがいます。

### ○フィールドでの体験をサポートする展示

フィールドに誘うガイダンス機能としての展示は、フィールドとの連動を想定しつつも、その役割を差別化する必要があります。たとえば、フィールドへ足を運べば簡単に現物が見られるものを、複製などの形で屋内に展示する必要はないかもしれません。しかし、アクセスが困難な場所、聖域や保護区など立入が規制される場所、あるいは季節や天候に左右される自然の事象や伝統行事などは、展示によって伝えたい情報を明確に、コンスタントに発信ができるという強みがあります。こういった様々なケースやフィールド内に存在する他の施設の活動内容とのすみ分けも考慮して、より効果的なガイダンス展示をめざします。

### ○温かみのあるわかりやすい展示

開放的で温かみがあり、手作り感あふれる展示空間を心がけ、内容も充実させます。また、長すぎず簡潔な説明文や直感的にイメージできる展示手法により、県外や国外からの来館者にも配慮した、万人にわかりやすい表現を心がけます。より深く展示を知りたい来訪者のために、図録や音声ガイドなどデジタル解説も検討します。



名護博物館の常設展示

## Ⅱ 活動計画

### ○地域性を前面に出した展示

展示説明に地域の言語や地方名を積極的に取り入れるなど、特色ある表現方法を検討します。ただし、これらの地域的背景がわからない来館者にも内容が理解できるような工夫は必要です。

### ○五感に訴えかける体験型の展示

資料を見るだけでなく、実際に使って学べるような体験型の展示手法を積極的に導入します。展示ケースに陳列する資料は最小限にし、可能な限り実物資料（飼育している生体なども含む）を露出展示することで、見て、聞いて、触れて五感に訴えかける展示をめざします。



実際に弾くことができるオルガン

### ○変化に対応できる展示

「名護・やんばるの自然と文化」という根底のテーマを主軸とした展示は不変的なものであり、継続的に公開していく必要があります。しかし同時に、常に変化し続ける現状を正しく反映し情報発信していくことも重要です。そのため、常に視点や切り口を変え、柔軟に展示替えが出来る体制・仕組み・手法を検討します。また、季節感のある地域情報を発信することで、地域住民には「自分たちの拠点施設」とであるという共感を、地域外からの来訪者にはいつも新鮮な感動が得られるような展示づくりをめざします。

## ウ. 企画展示・特別展示など

情報は常に変化するものであり、常設展示だけでは「名護・やんばる」の多様な自然や文化について網羅することは不可能です。正確な情報発信をおこなうために、またリピーター確保のためにも常設展示に加えて、期間限定の企画展や特別展を実施していくことが必要不可欠です。その時々々の社会情勢や地域の需要に合わせた企画展、「名護・やんばる」地域で得られた最新の調査研究成果を情報発信するための企画展などを実施していきます。

また、共催展や巡回展の実施など、様々な機関や団体などとの積極的な連携による相乗効果で、情報発信力を高めます。

## Ⅱ 活動計画

### (2) 教育普及 - みんなで遊び、みんなで学ぶ

#### ① 活動概要

地域資源を知り学ぶことで地域への誇りを育む教育普及活動と、地域資源の価値や利用方法などを正しく伝えるための教育普及活動を、地域住民、観光客の双方にむけて展開します。これらの活動は、地域の魅力を楽しみながら学べる内容をめざします。

#### ア. 体験プログラムを充実

名護博物館が30年以上継続してきた「ぶりでい子ども博物館」は、子どもたちが年間を通して野外などでさまざまなことを学ぶ体験講座であり、全国的にも先駆けとなる取組でした。 ※ぶりでい(群手)＝みんなの手

名護博物館の活動を継承し、さらなる地域全域の活性化を図る「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」は、対象となる参加者の年齢層や体験プログラムのメニューを拡充し、田畑や山、川、海などの自然と共生してきた「名護・やんばる」の生業を再体験できるような魅力ある体験学習の実施をめざし、「名護・やんばる」地域の自然を背景に連綿と継承されてきたくらしを伝え継ぐ歩みを踏み出します。

#### イ. 拠点施設と学校の連携を強化

2011(平成23)年から段階的に適用されている文部科学省の新学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得と共に思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

こうした背景のもと、「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」が学校教育で果たすべき役割は高まりつつあるといえるでしょう。

教育普及活動の対象となる本施設の利用者は、地域の人たちや、県外から訪れる観光客などさまざまですが、特に学校教育との連携に重点を置き、子どもたちの「生きる力」と地域への誇りや多様な個性を育むための教育に力を入れます。



小学校の授業での利用



## Ⅱ 活動計画

### ② 展開事例

#### ア. 学校との交流

##### ○教員研修・相互交流の強化

学校教育関連部署課との連携を密にし、学校教員の定期的な研修をおこなうなど、教員と本施設職員との交流の機会を設けます。本施設の活動と学校教育の相互理解を図ると共に、教員からの助言などを教育普及活動に活かします。

##### ○就学前教育と本施設利用

幼稚園や保育園とのネットワークを強化し、企画展やイベント時に積極的に足を運んでもらえるようにします。

一般的に、就学前の幼児への教育は、人格形成の基礎を培う重要なものとされています。この時期に本施設並びにフィールドの自然や歴史・文化などに親しみ、地域の文化や自然を体感することは将来的な人材育成の観点からも重要です。

##### ○学校教育における本施設利用

学校教育の中でどのような本施設利用が可能かを提示し、社会科や理科、生活科、総合的な学習の時間（総合学習）などの授業で、本施設が積極的に活用される機会を増やします。

具体的には、学校の年間計画や各学年のカリキュラムを把握したうえで、本施設資料や展示を授業に応用するための「名護・やんばるの自然と文化拠点施設利用の手引き」などを作成し、各学校に配布して活用を図ります。

同時に、後述の体験講座や出前講座、貸出学習キットなど、学校教育の需要に応えるプログラムのメニューを整備し、利用手引きの冊子や教員との相互交流の場などで紹介していきます。



企画展における児童の研究発表



小学校の総合学習へ出前授業



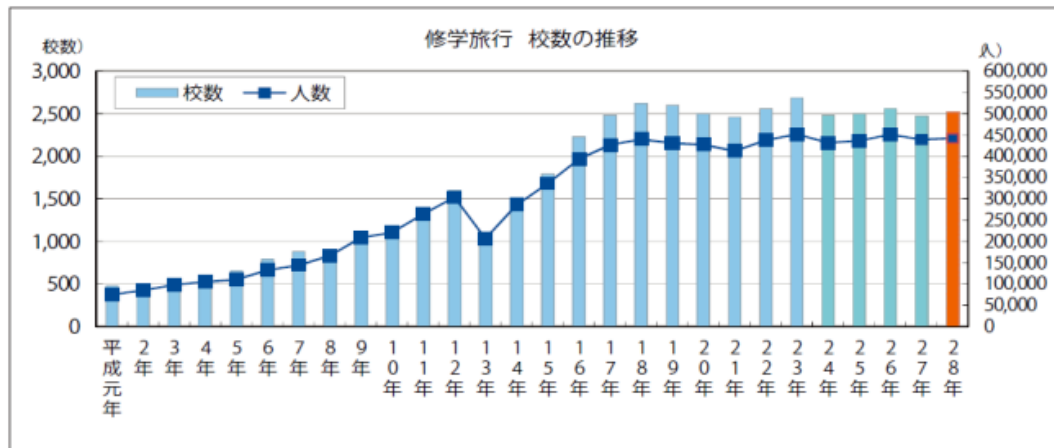
小学校の授業での名護博物館利用

## Ⅱ 活動計画

### イ. 修学旅行における本施設利用

修学旅行で沖縄を訪問する学校は多少の増減はあるものの、安定して2,500校前後、45,000人程度となっており、この修学旅行生に「名護・やんばる」地域を学んでもらう拠点施設として活用することができます。

県内の学校対象のものとは異なる利用手引きの作成や、修学旅行に焦点を絞った周遊ルート、学習ルートを整備し、県外学校や旅行者との連携も視野に入れて多様な学習体験プログラムを提供します。



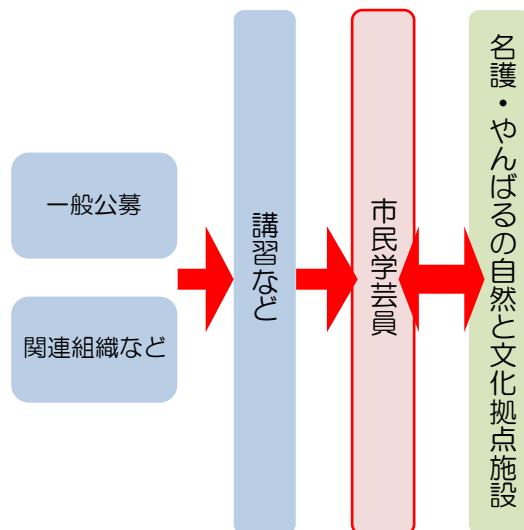
出典：平成29年7月「修学旅行入込状況調査の結果について」（沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課）

### ウ. 生涯学習（学校教育を含む）の支援

#### ○市民学芸員などの認定

本施設の活動をサポートするための講習などを受けて、一定の基準をクリアした方々を「市民学芸員」として認定します。

こうした取り組みは、本施設の活動を充実させるだけでなく、市民学芸員自身の生涯学習促進の機会にもなります。





## Ⅱ 活動計画

### Ⅰ. 体験講座

#### ○ぶりでい子ども博物館

地域の小学生を対象に、身近な自然や歴史・文化を体験を通して学び、考えることを目的として、これまで名護博物館として展開してきた「ぶりでい子ども博物館」のノウハウを活かし、さらに発展させた子ども博物館講座として展開します。対象年齢層の拡充や、子どもたちの考える力をより高めるような学習内容への改善を図ります。

#### ○その他の体験講座

親子体験講座など、ぶりでい子ども博物館の対象年齢に当たらない参加者の講座も積極的におこないます。また、本施設ならではの体験メニューを参加者に提供するほか、観光部局等とも連携して、観光客を対象としたプログラムへの情報・技術提供等も積極的におこないます。

(体験学習の例)

塩づくり体験…昔ながらの塩田を使って

トーフづくり体験…石臼を使って

黒糖づくり体験…キビ刈りからサーター車を使った黒糖づくりまで

標本づくり体験…身近な動物のはく製や骨格標本づくり

アダンなどを使った昔ながらのおもちゃづくり

漆喰シーサーづくり体験…赤瓦と漆喰で

バーキ（竹カゴ）づくり体験…竹取りから編むところまで

地域めぐり体験

琉球王府時代の測量体験…印部石（しるびいし）を使って など



ハル石（名護博物館資料）



黒糖づくり講座



塩づくり体験（塩田）



鯨類骨格標本づくり

## Ⅱ 活動計画

### オ. 講演会・学習会など

「名護・やんばる」のくらしと自然に関するさまざまなテーマの講演会や学習会を定期的におこない、利用者の生涯学習を支援します。

### カ. 貸出学習キット

さまざまな体験ができるコンパクトな学習キットを作り、学校や地域、宿泊施設などに貸し出すことを検討します。学習キットには、利用手引きを備え付け、利用者の学習を手助けする工夫を図ります。

### キ. 出前講座

学校や地域などに出かけておこなう講座です。現名護博物館では、学校などから要請されて学芸員が足を運ぶケースが多いですが、本施設では、学校などとの連携を活かし、積極的に本施設から足を運びます。

出前講座の講師は、専門的知識を持つ学芸員のほかに、市民学芸員やボランティアなども考えられます。

また、前述の貸出学習キットを活用したり、バーチャルミュージアムを応用した対話型の通信講座なども想定されます。

### ク. 利用者によるギャラリーの利活用

本施設のギャラリーを利用者に貸し出し、様々な展示会などを実施することで、利用者の発表、社会貢献活動を促進させ、生涯学習に貢献します。

### ケ. その他のクラブ活動など

学校の児童・生徒や市民の生涯学習を推進するクラブ活動やサークル・同好会に、本施設の設備や技術の提供など、必要な協力、支援をおこないます。



サーター車でサトウキビしぼり体験



稲作講座（イネモミの選別）



保育園の名護博物館見学

## Ⅱ 活動計画

### (3) 連携 – 「ぶりでい」の理念を表現する連携

#### ① 活動概要

##### ア. さまざまな連携の強化～共働することによって共に向上する～

みんなでつくり上げる「ぶりでい(みんなの手)」の理念を掲げる本施設にとって、連携はその活動をさらに充実させる重要な条件のひとつです。市民や諸機関の協力を得ることで、単独では困難な活動も実現可能となり、より大きな相乗効果が期待できるからです。

また、フィールドミュージアムのコアとしての機能を果たすためには、「名護・やんばる」各地で活動する組織や個人との連携が欠かせません。このような連携を強化することによって、「名護・やんばる」の情報を集約すると共に、他の4つの活動<①情報発信(ガイダンス、展示)、②教育普及、③調査・研究、④資料収集・保存>、とりわけガイダンスを含む情報発信をさらに充実させ、利用者の利便性の向上を図ります。

##### イ. 連携の成果を地域へ

地域との連携は特に重要で、住民(市民)に理解され、受け入れられなければ本施設の活動は存続できません。さまざまな連携によって得られた活動の成果は、情報発信活動や教育普及活動などを通して地域に還元し、本施設の活動についての理解をさらに深めてもらいたいと考えます。

現名護博物館のこれまでの活動が、沖縄在来豚「アグー」の保存や、昔ながらの塩田による製塩法の復活、「国指定重要文化財 津嘉山酒造所施設」の登録など、地域のブランドを創出するきっかけとなった事例もあります。本施設の活動と地域との連携が充実することによって、地域産業やまちづくりにも貢献することができます。

「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」は、地域に根ざし、共に成長していける施設をめざします。

## Ⅱ 活動計画

### ② 展開事例

連携活動は、他の4つの活動と密接な関係にあります。以下に代表的な連携活動の例をあげます。

#### ア. 自然、文化、芸能、くらしなどの連携プログラム

拠点である本施設での事前（事後）学習と合わせて、現地での周遊プログラムや体験プログラムなどの連携活動に反映させます。「名護・やんばる」各地における多様な自然や、歴史に根ざした生活文化や芸能などさまざまな分野が想定されます。

（想定される連携プログラムの例）

##### 「名護・やんばる」の黒砂糖づくりをめぐるツアー

サトウキビ伝来の歴史、サトウキビ栽培の農業の歴史、黒砂糖づくりの歴史と技術の進化などを学びつつ、実際にサーター（砂糖）車を使用した昔ながらの黒砂糖づくりを体験します。



サーター車

##### 「名護・やんばる」の生業とゆいまーる文化学習プログラム

「名護・やんばる」でおこなわれてきた生業とそれを営むために連綿と受け継がれてきた、集落単位で助け合う“ゆいまーる”の精神を、古写真を見たり古老の話から聞いたり現場を見たりして学びます。



炭焼き窯跡



藍壺跡



共同売店

##### 「名護・やんばる」の信仰と伝統芸能プログラム

地域に残る信仰の形態や芸能を本施設で学び、現地で実際に見学、体験します。祭祀がおこなわれている期間限定のツアープログラムとして観光誘致にも活用できます。



大宜味村・塩屋湾のウシガミ



国頭村・安田のシヌグ



名護市・安和のウシデーク



名護市・屋部の八月踊り

##### 「名護・やんばる」の自然体験グリーンプログラム

独特の自然をもつ「名護・やんばる」地域の生態系を知り、現地で自然環境と生態系の関わりなどを体感的に学びます。本施設の展示などによる事前学習と組み合わせたグリーンプログラムとしての展開も考えられます。



ヤンバルクイナ



オリオオオコウモリ



ケナガネズミ



オオゴマダラ



イタジイの森

## Ⅱ 活動計画

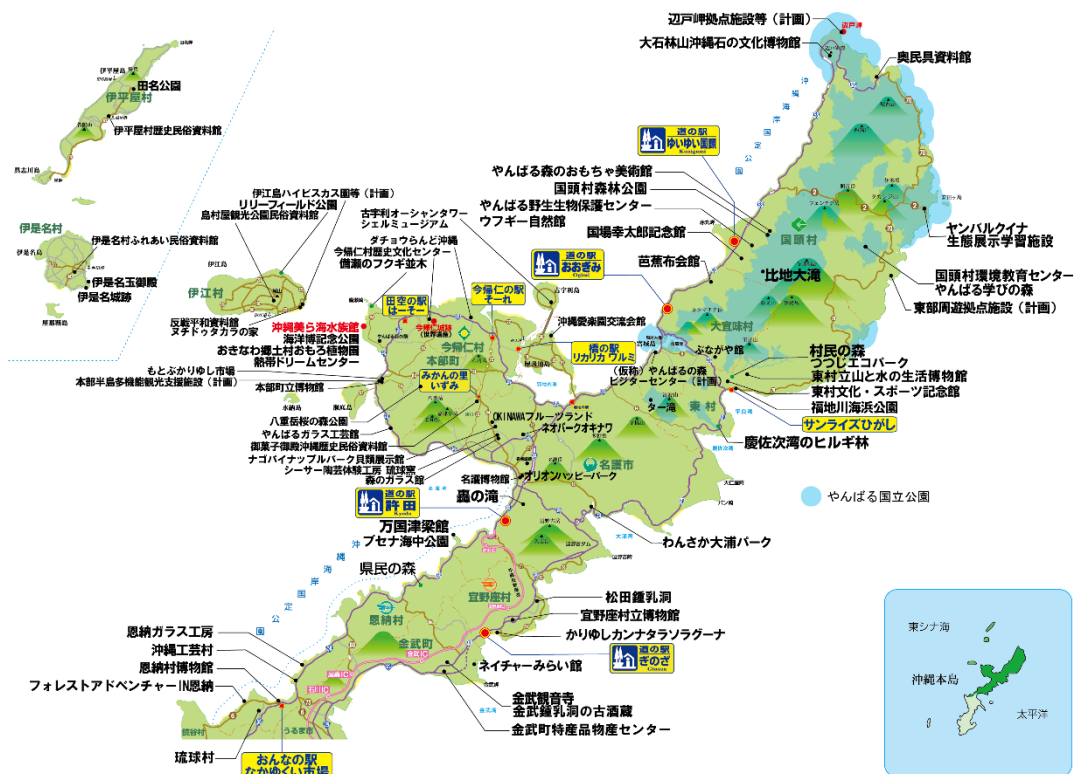
### Ⅰ. 広域データベース「バーチャルミュージアム」の構築、情報の共有化

さまざまな団体と連携し、情報・技術提供などの協力も受けながら、「名護・やんばる」の情報が集約される広域データベースを構築します。インターネットや館内の端末によって、これらの情報を閲覧可能にするシステムの導入を検討します。

また、集約された情報は、本施設無料スペースにおける総合ガイダンス機能などにも活かされます。

(発信が想定される情報)

- ・「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」活動に関する情報  
(収蔵資料や展示、イベントなど)
- ・連携団体の情報(展示やイベントなど)
- ・「名護・やんばる」でおこなわれるイベント情報や地域行事、情報のカレンダー
- ・季節の自然情報(植物の開花、渡り鳥、クジラの回遊、ウミガメの産卵など)
- ・「名護・やんばる」各地の文化財や自然などに関するマップや情報
- ・「名護・やんばる」でおこなわれた研究成果の情報、「やんばる学」に関する情報
- ・研究者や各種講座の講師、文化財・まちなか案内人情報などの人材バンク
- ・市民や利用者から投稿された「名護・やんばる」に関する情報 など



沖縄県北部地域の主な博物館・観光施設一覧

## Ⅱ 活動計画

### 沖縄県北部地域の主な博物館・観光施設一覧

市町村	名称	
名護市	道の駅許田	名護城
	羽地の駅	シーサーパーク琉球窯
	わんさか大浦パーク	名護博物館
	オリオンハッピーパーク	ネオパークオキナワ
	ナゴバイナッブルパーク貝類展示館	御菓子御殿沖縄歴史民俗資料館
	OKINAWAフルーツらんど	沖縄愛楽園交流会館
	森のガラス館	
国頭村	道の駅ゆいゆい国頭	大石林山沖縄石の文化博物館
	やんばる学びの森	国場幸太郎記念館
	奥民具資料館	比地大滝
	ヤンバルクイナ生態展示学習施設	辺戸岬拠点施設等(計画)
	やんばる森のおもちゃ美術館	東部周遊拠点施設(計画)
	ウフギー自然館	
大宜味村	道の駅おおぎみ (仮称)やんばるの森ビジターセンター(計画)	芭蕉布会館
	大保ダム管理事務所	ター滝
東村	東村立山と水の生活博物館	サンライズひがし
	東村文化・スポーツ記念館	福地川海浜公園
	東村ふれあいヒルギ公園	つつじエコパーク
本部町	もとぶかりゆし市場	備瀬のフクギ並木
	伊豆味みかんの里	琉宮城蝶々園
	田空の駅ハーソー	八重岳桜の森公園
	本部町立博物館	やんばるガラス工芸館
	沖縄美ら海水族館	
	海洋文化館	
	沖縄郷土村おもろ植物園	本部半島多機能観光支援施設(計画)
	熱帯ドリームセンター 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園	
今帰仁村	古宇利オーシャンタワーシェルミュージアム	ダチョウらんど沖縄
	今帰仁の駅そーれ	今帰仁村歴史文化センター
	リカリカワルミ	今帰仁城跡
伊江村	島村屋観光公園民俗資料館	反戦平和資料館ヌチドウタカラの家
	伊江島ハイビスカス園等(計画)	
恩納村	おんなの駅なかゆくい	恩納村博物館
	県民の森	万国津梁館
	沖縄工芸館	プセナ海中公園
	恩納ガラス工房	琉球村
	フォレストアドベンチャー	
宜野座村	宜野座村立博物館	かりゆしカンナタラソラグーナ
	道の駅ぎのざ	
金武町	金武観音寺	ネイチャーみらい館
	金武鍾乳洞の古酒蔵	
伊是名村	伊是名村ふれあい民俗館	
伊平屋村	伊平屋村歴史民俗資料館	

## Ⅱ 活動計画

### ウ. 共同調査・研究

必要に応じて、市内外のさまざまな機関や組織、個人と共同で調査・研究をおこないます。

また、市民学芸員の活用や、一般市民が調査に参加するなど、多くの人に関わる機会をつくります。

### エ. イベントなどの共同企画

さまざまな組織や個人と連携を図ることで、より充実したイベントなどの開催を図ります。

(想定される事例)

- 企業や研究機関などと連携した企画展、展示における技術提供やブース出展
- 連携機関における企画展などの巡回展
- 学校や社会教育施設、研究機関や公民館などと共催する講座・講演会 など

### オ. 産業連携

地域産業と連携し、地産地消を基本にしたさまざまな活動を展開します。

また、体験型観光や着地型観光(※)に応用できる地域の潜在資源を掘り起こし、観光産業や地域産業などと連携して本施設や地域への誘客を図ります。

※着地型観光＝観光客や旅行者を受け入れる地域が、自分たちの持つ観光資源を活かして企画するツアー

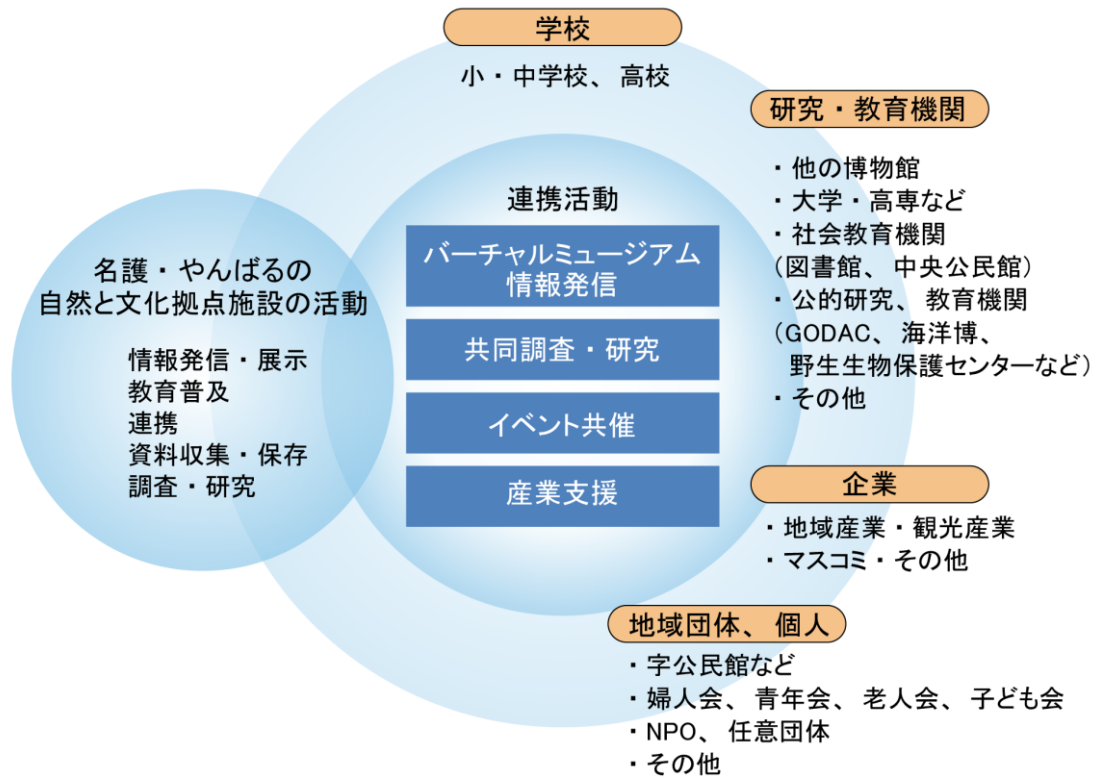
(想定事例)

- 地域性を活かしたグッズの開発と、ミュージアムショップでの販売
- 地元農家、NPOなどの団体と連携し、本施設敷地内で在来資源などを飼育・栽培  
⇒加工⇒ショップ販売など、小規模な6次産業の展開
- 観光協会や旅行会社、宿泊産業などとの連携  
⇒本施設見学や体験学習を旅行プランに組み入れるなど
- 地元マスコミとの連携によるイベントなどの効果的な広報 など

## Ⅱ 活動計画

### カ. その他の活動サポート

NPO、ボランティアなどによる本施設活動のサポート。





## Ⅱ 活動計画

### (4) 資料収集・保存 - 出かけ、集め、整理する

#### ① 活動概要

「名護・やんばる」の自然と文化の保存・継承を推進するために、フィールド内の地域資源の情報や現物資料の計画的な収集をすすめ、利活用を想定した保存をめざします。

#### ア. 収集の方向性

基本テーマである「名護・やんばるの自然と文化」を理解する上で必要となる資料を中心に収集します。現地で保存可能なものは、なるべくそのまま残して活用することを検討します。

また、民俗資料のうち、収集が軽視されがちな現代資料や、写真や映像、音声などの資料も重要な収集対象に位置づけます。

#### イ. 十分な収蔵スペースの確保と計画的な資料収集

現名護博物館の収蔵庫はすでに収蔵限界を超えており、施設外に場所を確保して資料を分散管理している現状があります。今後の継続的な資料収集活動を見据えた適切な規模の収蔵スペースが必要になります。また、限られた収蔵スペースを有効に使うためにも、目的と工程を明確にして、現在不足している分野の資料収集も補いつつ、バランスのとれた資料収集・保存計画を実行する必要があります。

#### ウ. 資料の保存とその安全性

収蔵された資料は、その種類・特性に応じた適切な保存をおこなう必要があります。特に貴重な資料は特別な収蔵環境が必要になりますが、現名護博物館の収蔵庫では対応できていません。このような資料の収蔵が可能な環境を整備する必要があります。

また、資料保存は、温度、湿度、塩害、害虫などの対策に加え、火災や地震・津波、台風など、自然災害への安全対策も万全でなければなりません。

#### エ. 収蔵資料の活用

収蔵した資料を有効に活用するためには、資料にかかる負荷を最小限にしつつ、利用可能なシステムを構築する必要があります。また、収蔵情報を一般に公開し、利用者が活用できるしくみが不可欠です。

## Ⅱ 活動計画

### ② 展開事例

#### ア. 資料収集

##### ○自然史

地域性の高い資料や人のくらしと関わりの深い資料を優先して収集します。

絶滅が心配されている貴重種だけでなく、種の多様性をふまえた上での収集に努め、学術研究の基礎となる標本（タイプ標本）なども積極的に収集します。在来家畜や農作物など、遺伝子（種内）の多様性を考慮した収集もおこないます。

##### ○歴史・民俗・考古

地域の歴史を理解する上で重要となる古文書や古地図、写真などのほか、「名護・やんばる」ゆかりの人物に関する資料を継続的に収集します。

埋蔵文化財の保存は文化課を中心におこない、博物館収蔵物とは別枠で検討します。

移民や戦争に関する資料も継続的に収集します。

##### ○現代資料（戦後生活資料）

くらしの変遷を捉えるための資料を積極的に収集します。

時代背景がわかる資料を丁寧に収集します。

##### ○美術工芸

「名護・やんばる」に縁があり、美術活動に貢献した人物の作品を中心とし、「名護・やんばる」を題材とした作品の収集を心がけます。



オオバン骨格標本（自然史資料）



サバニ（民俗資料）



山入端一博絵画（絵画資料）



程順則資料（歴史資料）



琉球王国進貢船の碇石（考古資料）

## Ⅱ 活動計画

### イ. 保存と活用

#### ○適切な収蔵機能の整備

- ・特別収蔵室を配置し、空調が常時必要である貴重な資料の保存に対応  
例：程順則資料（歴史）／琉球嶋真景（美術工芸）など
- ・資料の種類・保存方法に応じて、それぞれ適切な収蔵スペースを配置  
例：液浸標本室（自然史）／冷凍室（自然史）／絵画収蔵室（美術工芸）など
- ・非常時で電気が供給されない場合、自家発電等で空調・冷凍機能などを確保

#### ○資料保存に必要な業務

- ・資料受付台帳への記入、写真撮影、データ化
- ・登録資料の整理、適切な収蔵室への配置
- ・薬品処理など、資料保存のための適切な処置と資料劣化有無の定期的確認
- ・標本作製業務（保存用／展示用）
- ・虫害を防ぐための定期的なくん蒸、資料搬入出の際の仮なくん蒸
- ・収蔵室の温湿度等の管理・記録
- ・貸出の際に資料の安全性が確保されるルール作り
- ・IPM（総合的病害虫管理）の導入

#### ○収蔵資料の利活用

- ・資料に負荷をかけず搬入出をスムーズにおこなうためのシステム  
例：動線設定／昇降装置／資料一時保管室／なくん蒸室 など
- ・収蔵資料の種別、写真、収納場所などの情報を整理し、データベース化、公開
- ・外部への資料貸出やそれによって得られた研究成果などを公開
- ・貸出用キットの整備による資料貸出利用の促進
- ・企画展や特別展示などでの利用
- ・一部の資料を収蔵展示という形態で公開

## Ⅱ 活動計画

### (5) 調査・研究 - みんなで知る喜び

#### ① 活動概要

「名護・やんばる」を対象として調査・研究をおこない、そこで得られた学術的な知見を他の活動に還元することで、情報発信や教育普及活動、それらに関する連携活動の正確性を担保し、その質を高めます。

#### ア. 多くの人々が関わる調査・研究

本施設の学芸員のみがおこなう調査・研究だけでなく、さまざまな人々が関わることで「みんなで知る喜び」を創造、共有します。

#### イ. 対象とする分野

調査・研究対象となる分野は多種多様であり、そのアプローチの方法も実にさまざまです。

「名護・やんばるの自然と文化拠点施設」の基本テーマは「名護・やんばるの自然と文化」であり、調査・研究活動はこれを掘り下げ、多角的にアプローチすることで様々な知見を蓄積し、地域住民や観光客等のニーズに応えます。

#### ウ. 成果の還元

活動で得られた成果は公開し、地域住民の生涯学習、学校教育、観光資源発掘などに貢献します。



やんばる学研究会



名護博物館の刊行物

## Ⅱ 活動計画

### ② 展開事例

#### ア. やんばる本来の自然生態系の再生

- ・フィールド各地の自然生態系（海—川—山の一体的環境）
- ・河川環境の復元とリュウキュウアユの復活

#### イ. 在来文化資源の活用

- ・在来資源の保全と活用（アグー、琉球犬などの動植物）
- ・亜熱帯酸性土壌を活かした複合型農業（パイン、シークワサー、稲など）
- ・「名護・やんばる」の漁業（海の小字名、魚垣、捕鯨など）

#### ウ. 伝統行事の保存・継承

- ・村踊りの歴史・文化とその多様性
- ・「名護・やんばる」の祀り（祭り）



瀬底豊年祭（本部町瀬底）

#### エ. 集落の成り立ち、村（ムラ）の歩みの継承

- ・フクギや公民館などにみられる集落の変遷
- ・「名護・やんばる」の教育史
- ・地域の言語と民謡

#### オ. 暮らしの知恵・わざ・心の体感・実践

- ・アダンやクロツグ（マーニ）を使ったおもちゃづくり
- ・在来食資源（家畜、ソテツ、ハマハウレンソウなどの植物等）の料理方法
- ・竹の植林と民具の製作

#### カ. 先人たちが遺した文化遺産

- ・「名護・やんばる」の人物史  
（程順則、蔡温、徳田球一、山入端隣次郎、宮城與徳、黒岩恒など）
- ・「名護・やんばる」の石碑
- ・戦争体験や戦争遺跡、戦後生活史